

97 名古屋経専新聞

名大経済学部の前身校は名古屋高等商業学校（名高商）ですが、戦時中の1944(昭和19)年から1951年まではその名を「名古屋経済専門学校（名経専）」と称していました。名経専は、特に終戦後の厳しい社会状況下で、戦後復興をけん引する企業人や経済人を育てる役目を担いました。しかしながら、その学校生活を生き生きと伝える資料は、これまであまり見つかっていませんでした。

それが、このたび、1948年以降に発行された「名古屋経専新聞」のうち5部が、経済学部同窓会キタン会に卒業生より寄贈されました。この新聞は、名経専新聞部により1946年11月から1951年2月まで全22号発行されました。しかし図書館にも経済学部にも現物は残っておらず、大学文書資料室にも1946-47年の断片的複写（全7頁分）が保管されているのみだったのです。

名古屋経専新聞の編集兼印刷発行者は、ケインズ研究の

第一人者、^{しおの やつুকも}塩野谷九十九教授でした。新聞の刊行は「ケインズ革命」という言葉が広まる時期で、塩野谷教授本人の論説も見られます。ちなみに、創刊に際しては当時の蔵相石橋湛山（後の首相）が「諸君の力借りたいー君らこそ第二のケインズ」という記事を寄せていました。

もちろん学問の記事ばかりではありません。1948年には、名大への合流に際し文・経・法学部を一つの学部（法文学部）にしたい国側と、各学部の独自性を主張する名経専との議論を伝える記事が目を見ます。他方でまた当時の映画評や詩作、麻雀熱を伝える記事もありました。

1951年2月の終刊号では、塩野谷教授を司会として教授陣と卒業生が名高商を回顧する座談会が組まれました。ここには当時の生活や流行の話、勉強の苦勞話、笑い話、戦時中の話などが盛り込まれており、名高商以来の経済学徒の日常を知る上で興味深い資料となっています。



1	2	3
4	5	

- 1 名経専の校門。校舎は桜山の名高商校舎（現名古屋市立大学医学部）を継続して利用した。
- 2 名古屋経専新聞の実物。キタン会所蔵。大学文書資料室では1～4号（断片）、11、13、16、19・20、22号（終刊号）の複写を保管しています。複写版の閲覧をご希望の方は、大学文書資料室までご連絡ください。
- 3 名古屋経専新聞の記事。上から塩野谷教授の記事、名大合流問題の記事、座談会の記事。
- 4 名古屋経済専門学校の新聞部。1951年度の名経専卒業アルバムより。大学文書資料室所蔵。
- 5 塩野谷九十九教授。1951年名経専アルバムより。